

メバチ 大西洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*

管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近一年間の動き

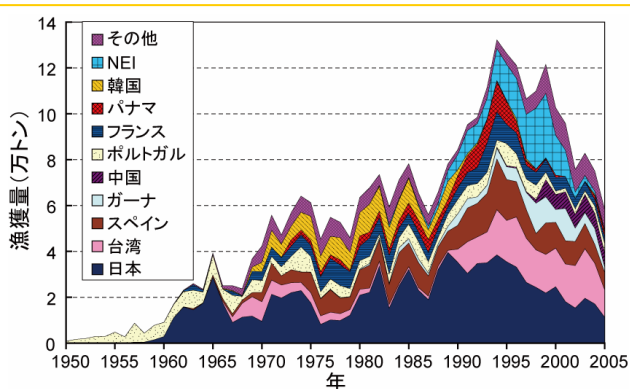
2006年度の資源評価は行われていない。2005年の漁獲量は、はえ縄・まき網・竿釣りとも減少傾向を示し、総漁獲量も前年に引き続き減少した。台湾の過剰漁獲、漁獲海域の付け替え行為に対し、2005年の ICCAT 本会合では、2006年度の協定海域での台湾漁船のメバチ漁獲量を 4,600 トン、メバチ対象漁船を 15 隻に制限し、2006 年末までに 40 隻のスクラップを施行する措置がなされている。

生物学的特性

- 寿命: 10～15 歳
- 成熟開始年齢: 3 歳 (120 cm で大部分が成熟)
- 産卵期・産卵場: 周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場: 特定の海域・時期の報告はない
- 食性: 魚類・甲殻類・頭足類、他のまぐろ類よりハダカイワシ・ムネエソ等の中深層性魚類が多い
- 捕食者: 大型のまぐろ・かじき類、さめ類、鯨類

漁業の特徴

本資源ははえ縄(日本・台湾・韓国等、2005 年は 3.6 万トン)、竿釣り(ポルトガル・スペイン・フランス・ガーナ等、1.1 万トン)、まき網(スペイン・フランス・ガーナ等、1.3 万トン)で漁獲される。成魚が主対象のはえ縄による漁獲が大部分を占めるが、大西洋は他の大洋と異なり、まき網や竿釣りの漁獲も多い。

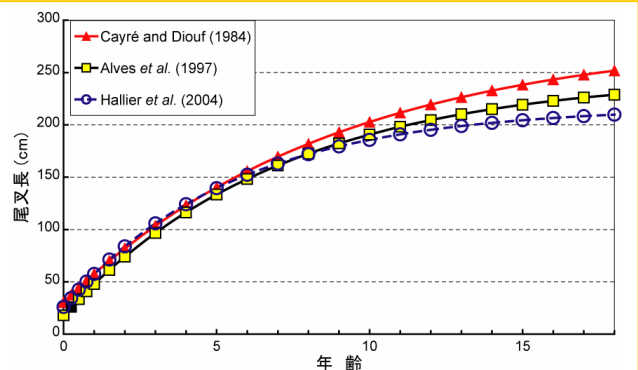


本資源の国別の漁獲量

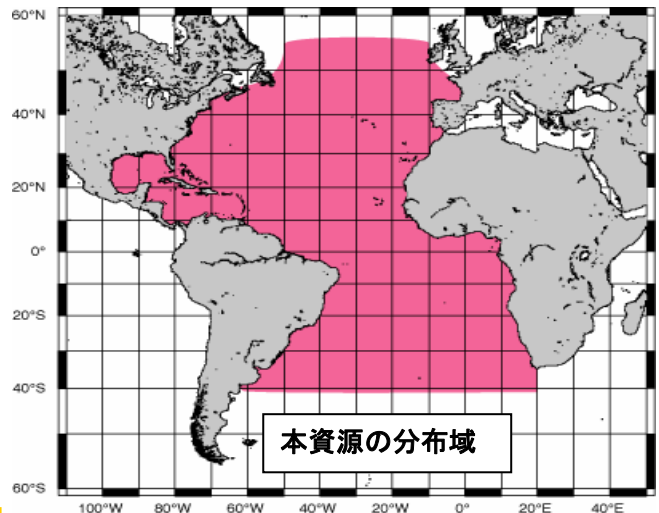


利用・用途

刺身、すし、缶詰、魚肉ソーセージの原料など

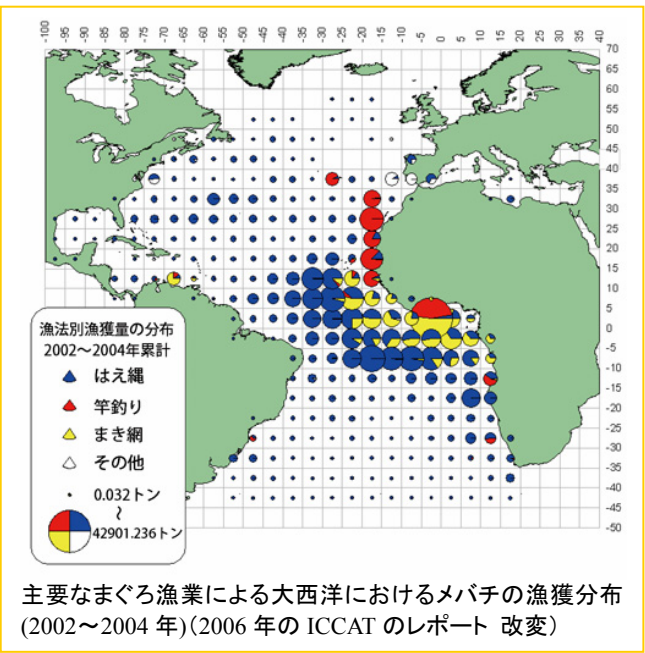
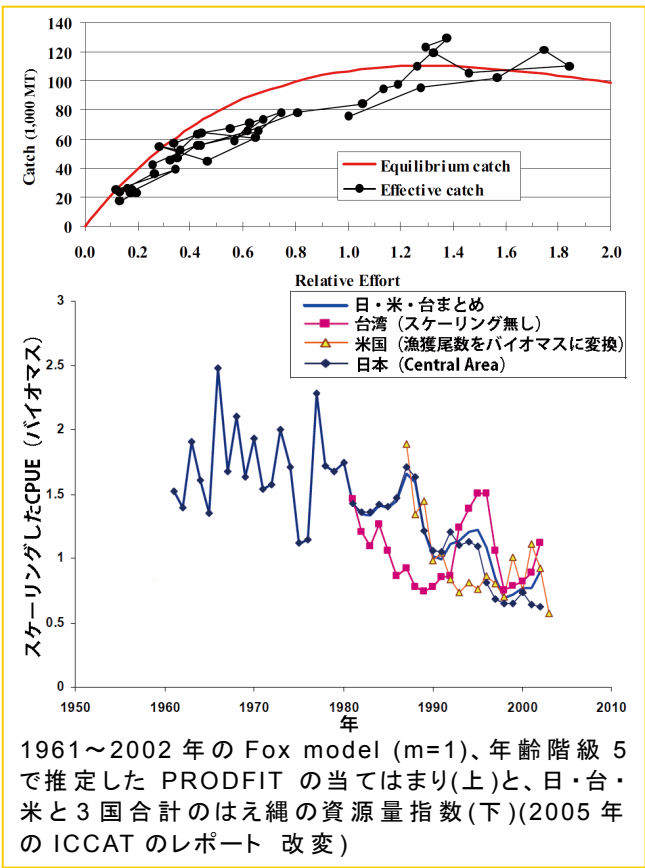


推定成長(標識放流 Cayré and Diouf 1984、脊椎骨 Alves et al. 1998、耳石 Hallier et al. 2005)



漁獲の動向

総漁獲量は 1994 年に過去最高の約 13 万トンから徐々に減少し、1998 年は約 9.5 万トン、2005 年は約 6.0 万トン(暫定値)である。1991 年からの漁獲増はまき網・はえ縄・竿釣りの漁獲増により、1995 年からの減少は主にまき網とはえ縄の漁獲減による。1991 年のまき網の FADs 操業(人工浮魚礁)の開始以降、3～4kg の小型魚の漁獲が増加した。



資源状態
 本資源の総漁獲量は1993~1999年にMSYを上回ったため、資源量がかなり減少したと思われる。2004年の解析結果によると、現在の資源量はMSYレベルの資源量付近で、現在の漁獲圧もMSYを達成する水準付近であることが示唆された。

資源評価まとめ

- 資源量はMSY水準付近
- 漁獲圧はMSYを達成する漁獲圧付近
- 過剰漁獲状態は脱したかに見えるが、主要漁業のはえ縄のCPUEには依然として減少が続き、注意深く資源量の変化を見守ることが必要

資源管理方策まとめ

- ギニア湾(0~5°N、10~20°W)11月の巻き網・竿釣りの全面禁漁
- 漁獲努力量の凍結および国別漁獲枠の設定
- 統計証明制度の導入
- オブザーバー調査実施

管理方策

1980年のICCATの行政官会議で採択された3.2kg未満の小型魚の漁獲規制はほとんど守られていなかった。ICCATは1999年より、11~1月のギニア湾での流れ物操業を全面禁止していたが、これに替わって、11月のギニア湾(0~5°N、10~20°W)での巻き網と竿釣りの全面禁止が2004年の行政官会議で決定された。漁獲努力量の削減の為、1998年に大型漁船の登録と同時操業隻数の凍結が決定された。漁獲量規制では、1999年のメバチ漁獲量が2,100トンよりも多い主要漁業国の漁獲枠が1991年と1992年の漁獲量の平均値に設定された。また、2004年のICCAT行政官会議では、2005~2008年のメバチ保存管理措置(主要漁獲国の漁獲枠、漁獲能力制限)が合意された。統計証明制度は2002年4月から開始されている。

メバチ(大西洋資源)の資源の現況(要約表)

資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年)	6.0~9.6万トン 平均7.8万トン
我が国の漁獲量 (最近5年)	1.1~2.0万トン 平均:1.6万トン